



## 神社と四季「G7広島サミット首脳厳島神社訪問」

広島県神社庁報  
ふたば

# 二葉

第151号

発行所 広島県神社庁  
広島市東区二葉の里  
☎ (082) 261-0563  
FAX (082) 261-6628



**就任あいさつ**

広島県神社総代連合会 会長 佐藤賢一

本年三月広島県神社総代連合会会長の、後高雄氏が、体調を崩され、退任されました。後任として、福山市神社総代会会长で、北吉津鎮座、艮神社役員（総代会会长）の私が務めることになりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

令和五年度の、役員会において、広島県神社総代連合会実践目標として

一、皇室敬慕の念の醸成に努める。

一、神宮大麻並びに氏神札の頒布向上に努める。  
一、少子高齢化・過疎化の中、神社運営の健全化に努めるとされています。

特に神宮大麻頒布に際しましては、コロナ禍の中、神職と総代がともに協力して、奉斎家庭が増えますよう、皆様方の御協力をお願ひいたします。

扱、令和元年末に確認された新型コロナウイルスは、依然として我々の生活に影を落としています。その影響は私たちの地域の祭事や伝統行事に留まらず、日常的な行動にまで中止や延期を余儀なくされました、未曾有の災禍に際しひとりひとりの距離が離れてしまいやすい昨今であります。各神社の総代の皆様のより一層のお付き合い、氏子同士のつながりを絶やさぬ様に、協力していただきますようお願いいたします。

今年も例年の通り猛暑が予想されますが、皆様方には体調に御注意いただき、各神社の護持運営に御協力を宜しくお願いいたします。

最後に、私は心からの感謝と敬意を込めて、皆様に御礼を申し上げます。皆様のご支援と御協力がなければ、私の新たな任務を果たすことができません。共に歩んでまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

四、氏子崇敬者の部（三名）  
山広島県西市  
大歳神社  
大歳神社崇敬者  
大歳神社崇敬者  
大歳神社崇敬者

### 三、総代の部（八名）

賀安三  
茂佐次

## 二、責任役員の部（五名）

比 豊 安 安 因 尾  
婆 田 芸 島 道  
竹 高 潤 戸 御  
東 原 田 佐 田 調

奴 重 高 弘 八 艮  
可 松 頭 住 幡 神  
神 神 神 神 神 神 社  
社 社 社 社 社 宮  
宮 宮 宮 宮 宮 祿 宮  
司 司 司 司 司 宜 司

広島県神社庁表彰

河佐真 兼中馬今安森青油  
本藤木 近野躰田藤 景井  
正喜政 邦久 忠信美治行  
伸徳彌 義男勝男三雄憲雄

邑加中三黒	中大長沓兒宮
岡栗務堂田	島成屋内玉本
昭建和英博	好景和な道 ほ
二男昭政巳	古俊治子隆基

## 一、責任役員の部（十四名）

一、總代の部(七名)

## 二、総代の部（七名）

竹石谷井村藤角  
井飛光清上井野  
秀慶弘春和竹  
行久至實秀浩義

福古渡園宮山田山藤升伊井伊山  
田本邊尾丸本丸本永田田上原根  
政友隆幸道三敏昭 春浩一  
悟元之之三男郎雄人茂人喜義

広島県神社総代連合会表彰

# 第六十七回 広島県神社関係者大会 表彰

## 庁舎の建設に向けて

### 現庁舎の現状

広島県神社庁が現庁舎を建設したのは、昭和五十一年です。広島市東区の二葉山に、当時七千万円の資金を投じて一八六坪の土地を購入し、さらに鉄筋コンクリート三階建て延べ床面積二七一坪の庁舎を建設しました。

そこから今年で四十七年が経ちます。鉄筋コンクリートは施工から四十五年で劣化が進むといわれています。実際に現庁舎も、多くの場所でひび割れや水漏れに悩まされています。



震に耐えられる」とされますが、二十年以内に六割の確率で発生が予測される南海トラフ地震に耐えられる保証はどこにもありません。

さらに現庁舎は完成以来、一度も耐震化工事が行われていません。庁舎で職員が事務を執ることも、神職が会議や研修を行うことも、現状では不安が残ります。



旧基準



新基準

庁舎建設委員長 櫻井建弥

### 庁舎建設準備委員会の開催

去年七月の役員会の決定を受けて、庁長をトップとする「庁舎建設準備委員会」が発足しました。

その協議の結果、①庁舎は移転を前提とする、②候補地や建物の形状は次の庁舎建設委員会に委ねる、③予算は、既存の庁舎建設積立金とその他の特別会計の活用、県内神社関係者の募財等を検討する、との報告書が、今年三月に提出されました。

この中で庁舎移転を前提としたのは、現庁舎に十分な駐車スペースがなく、庁舎に向かう道路が急な勾配の坂道で、神職や総代が集う拠点としてこの場所の継続は難しいとの判断によるものでした。

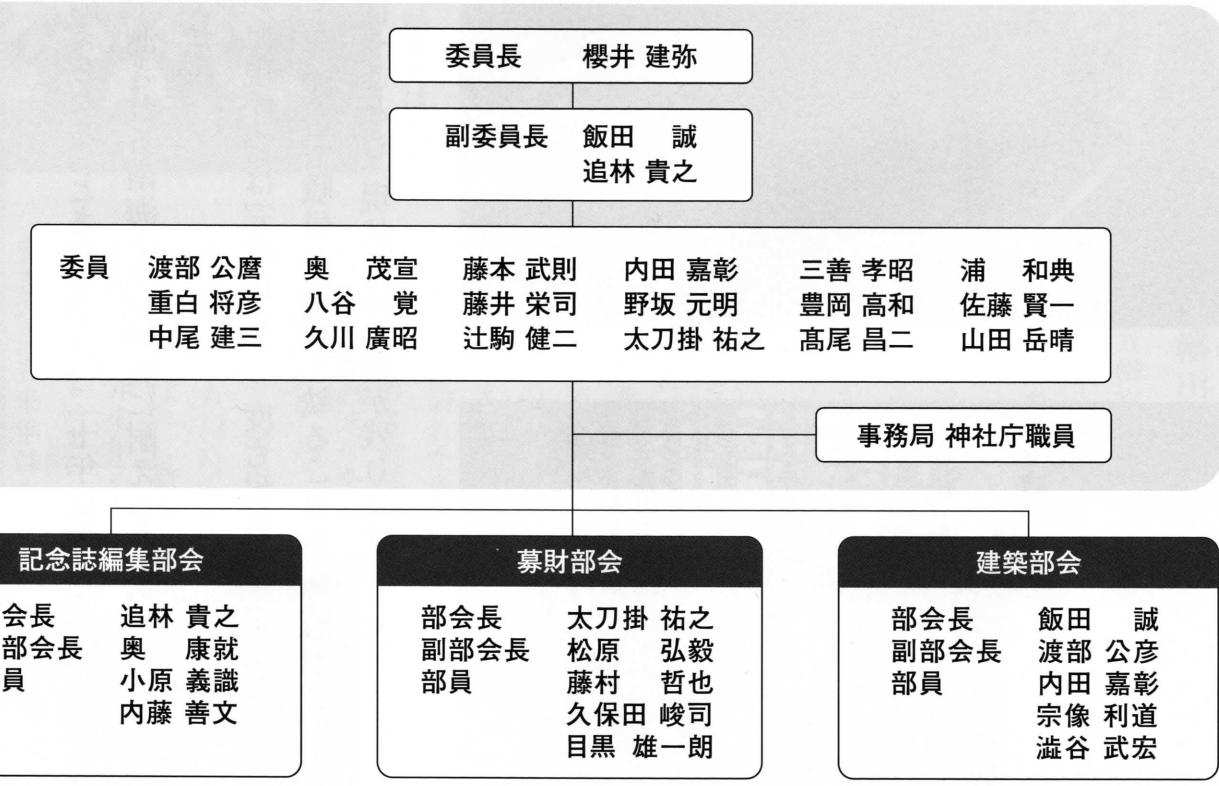
ただ報告書では、現在地の活用や処分、金銭的な理由で現庁舎の改修も排除しないとして幅広い検討を提言しています。

### 庁舎建設委員会の発足

庁舎建設委員会は、役員会が決定した「規定」をもとに、神社庁副庁長や理事ら「十一人の委員で構成され、その元には若手を中心の実働部隊として「建築部会」「募財部会」「記念誌編集部会」の三部会が置かれました。

三部会はすでに、広島市内を中心に土地建物の販売物件の洗い出しや募財をお願いする場合の公平公正な負担のあり方など検討作業を急ピッチで進めています。

### 庁舎建設委員会 組織図



## 庁舎建設の概算

委員会では現在、以下三つのケースを想定して調査検討を行っています。

【1】広島市を中心に外部の土地を購入して、そこに新庁舎を建設する。

【2】現庁舎を取り壊し、現在地に地下駐車場付きの新庁舎を建設する。

【3】他県の神社庁の多くが採用しているように、中心都市やその周辺にある神社の境内地の一部を提供してもらって、新庁舎を建設する。

そして、必要な間取りを検討し建物は現庁舎の七十五%程度、土地は広島市東区やその周辺の駅から徒歩十分～二十分程度で建設に必要な一五〇坪を購入するとの想定で計算した結果、

【1】では、ここ数年の建設資材の価格急騰に加えて、広島市の最近の地価上昇が響いて建設費用の試算は四億～五億円に達する見込みです。

【2】は、土地の購入費用は必要ありませんが、地下駐車場の建設費や解体費用が新たにかかる上、アクセス道路が狭く工事費が高くつく恐れもあって同じく四億～五億円の見通しです。

【3】では、境内地を購入ではなく賃借できるという前提で、建設費用は一億数千万円に抑えることができますが、応じてくれる神社の有無が大きな課題です。

## 今後の庁舎建設の進め方

「建築部会」では、準備委員会の報告書に沿って、一先ず候補地の選定を進めていますが、これに加えて閉鎖されたオフィスビルや競売物件、賃貸物件などにも対象を広げ、今年の秋ごろまでを目途に物件探しを続ける計画です。

## 費用負担の基本的な考え方

まず、神社庁が持つ庁舎建設のための積立金は、約五千万円です。「募財部会」では神社庁にはその他の特別会計の一部取り崩しや管理費・事業費の節約などを求める方針です。

また募財をお願いする場合、比較的資金力があつて神社庁運営にも一定の責任がある別表神社九社と、その他本務宮司神社三〇〇社、さらに本務宮司以外の神職、総代、関係する取引先などに分けて検討したいと考えています。

現庁舎の土地を売却できたとしても、なお資金が足りない場合、金融機関から借り入れ、その後、一定期間、特別負担金をお願いして返済を進めていかなくてはなりません。

## 広島県神社界の力を合わせて

以上、ご説明したように、新庁舎の建設には大変な資金と労力が必要です。神職、総代の皆さまの中には様々な意見があることも承知をしています。

ただ、新庁舎は、これから広島県の神社界を担う神職や関係者が集い、活動する要になる施設です。仮に庁舎建設をこれから十年、二十年先送りしたとしても、神社界の資金力が今より増しているとは考えづらく、むしろその逆ではないでしょうか。

建設費用はできる限り努力して圧縮し、公平公正な負担をお願いして、今回数字を示してご説明したように透明性を徹底して議論を進めていきたいと考えています。

神社関係者一人ひとりのご協力なくしては、新庁舎は一步も前に進みません。皆さまのご理解とご支援を切にお願い申し上げます。

去る令和五年六月十六日、広島県神社庁に於いて神職一般教養研修会が開催されました。五月より新型コロナウイルス感染症が五類へと移行し、マスクの着用も個々の判断に委ねられたことにより、久しぶりにマスクに覆われていないお顔を拝見する事ができた方も多く、講堂内も明るい雰囲気が感じられました。

そんな中、第一講目にはマツダ株式会社、植月真一郎先生に『ひろしまで生まれ育った自動車メーカーの飽くなき挑戦』をテーマにご講演頂き、マツダ株式会社の歴史、現状、そして将来の目標として、令和十七年（二〇三五年）に世界の自社工場で二酸化炭素の排出を実質ゼロにする、カーボンニュートラル実現に向けた取り組みについて等のお話をして頂きました。他にも、他の大手自動車メーカーとの差別化を図り、世界で勝負・挑戦するための戦略や、それらを度外視した自分達の本当に作りたい車について等を熱く語られ、その後の質疑応答においても、今後の期待が込もつたご意見や感想が多く上がつておりました。

第二講目には、八幡神社宮司、田中律子先生に『備後弓神樂の実演』を行つて頂きました。広島県内に於いても伝統の継承が徐々に難しくなつてきている中、先代の後を継ぎ様々なご苦労をされたお話や、ご自身がどんな思いのもと弓神樂を行つているか等のお話を頂き、その後実際に神事を執り行つて頂きました。弓神樂の名の通り、弓を張り弦を叩きながら奏上される祝詞・神樂歌は抑揚のつけ方が特徴的で、我々が普段祭典やご祈祷で奏上しているものとは全く異なり、相當なご苦労、努力をされたであろうことを強く感じました。

第三講目には、教化委員会の調査・研究部会長でもある、宮崎神社宮司、井口貞春先生に『神社のSNS活用のその先』と題してご講演頂きました。今の時代に於いてインターネットの普及速度は

## 教養研修会 報告

比婆東支部

一野宮神社 宮司

伊達正泰

凄まじく、それに伴い我々の生活もどんどん便利になつてきていますが、同時に互いの顔が見えないからこそ起つてゐる問題も数多く存在しています。そのような問題点を始め、インターネット上のコミュニティサービス『SNS』を使用するにあたつての注意点やメリット・デメリットを、幅広い世代の参加者へ分かり易くお話し頂きました。井口先生はSNSの一つであるYouTube（ユーチューブ）を始め、複数のSNSで神社についての情報を発信されており、ご自身の体験談から各お社に合つたおすすめのSNSについてもご紹介されました。

今回の研修会でのお話は、環境問題、伝統文化の継承、インターネットとの付き合い方と、全てこれからの中神社界にとつても課題となつてゐるものばかりで、また、今現在明確な答えがあるものではない非常に難しい問題だと感じました。これから先五十年後や百年後がどのような時代になつてゐるか今はわかりませんが、だからこそ我々神主が正しい知識を身に着け、神明奉仕に努めていかなければならぬと、強く感じた研修会となりました。



# 神社建築視察研修会 報告

呉支部 亀山神社 権禰宣 太刀掛 潤平

宮島の嚴島神社（野坂元明宮司）は、日本を代表する歴史的な神社の一つであり、その美しい風景や文化的価値は国内外から多くの人々に愛されています。タイムリーな話では、令和五年五月に広島で開催された先進七カ国首脳会議では、参加された各国の首脳が宮島に来島され、嚴島神社を見学されました。ますます世界中からの注目を集めることでしょう。その中でも、嚴島神社の鳥居は、シンボル的存在として知られ、美しい景観を形作っています。しかし、海上に面した立地条件や自然環境の変化によって、塩害や虫害の問題が発生することは避けられません。そのため、大鳥居の修繕が必要になつたのは当然のことと言えるでしょう。

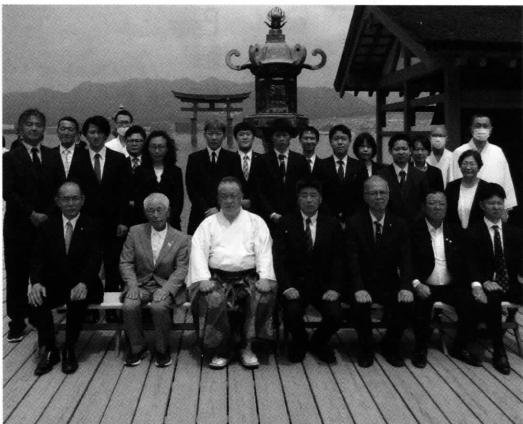
現在の大鳥居は、明治八年（一八七五年）に建立され、昭和二十五年の大規模な修復から約七十年ぶりの大改修となります。鳥居の主柱は大きく損傷し中は空洞になつていています。

空洞は、工事の前から存在が確認されていたもので、虫による被害が原因と考えられます。工事では、オリジナルの木の部分ができるだけ残そうと、腐食した部分だけをかき取り、そこに健康な木材を埋め込む伝統的な「埋木」の技法を用いました。一方で、地震に備えた柱の耐震補強には、阪神大震災の復興工事でも使われた炭素繊維や、ステンレスを採用するなど、現代の技術を取り入れられているようでした。

私は日本の文化遺産を守るために、定期的なメンテナンスと修復が不可欠だと再認識しました。歴史的な建造物や神社などは、年月を経て劣化や損傷が進むことがあります。しかし、私たち神職の責任はそれを守り、後世に継承することにあるのです。嚴島神社の鳥居が修繕されたことで、この価値ある遺産が後世に伝えられることを心から喜ばしく思います。また、この出来事は私にとっても教訓となりました。自然環境の変化や気候変動は、私たち神職がそれ

ぞれ奉仕する神社に対しても大きな脅威となり得ます。塩害や虫害はその一例であり、これらの問題への対策を講じることが重要です。私たちは、持続可能な方法で神社を保護するために努力し、自然との調和を図る必要があります。これからの時代、環境への配慮がますます重要になっていくでしょう。

最後に、前述したように私たち神職の責任は、歴史的建造物や伝統の継承であります。伝統を守りつつも柔軟性を持ち、新しい価値観や社会の変化にも対応する必要があります。古い伝統を尊重しながらも、現代の人々が共感しやすい形で伝える工夫や、境内環境のアップデートも検討することが重要です。そのためには、学びと研鑽を続けることが必要です。神社は歴史的な背景や深い意味を持つています。その理解を深め、知識を広げるためには、関連する文献や資料の研究、神社や伝統に関連する研修会への参加が重要です。これからも様々な研修会に参加し先輩神職や専門家からの指導を受け、実践的な技術や知識を習得していく所存です。



支部番号	支部名	登録神社数 [令和5年1月現在]	巴総数	巴紋の%	左巴	右巴	左巴の%	右巴の%
01	広島市	28	13	46	12	1	92	8
02	呉	30	13	43	9	4	69	31
03	三原	16	7	44	5	2	71	29
04	尾道御調	29	14	48	6	8	43	57
05	因島瀬戸田	27	8	30	5	3	62	38
06	沼隈	29	12	41	8	4	67	33
07	福山	57	22	39	13	9	59	41
08	府中芦品	40	9	23	2	7	22	78
09	三次	68	19	30	11	8	58	40
10	庄原	50	5	10	3	2	60	40
11	佐伯大竹	97	10	10	6	4	60	40
12	安芸	17	7	41	7	0	100	0
13	安佐	61	22	36	12	10	55	45
14	山県東	48	20	42	19	1	95	5
15	山県西	37	6	16	4	2	67	33
16	安芸高田	33	11	33	6	5	55	45
18	賀茂	79	36	46	17	19	47	53
19	豊田竹原	50	13	26	10	3	77	23
20	世羅	55	20	36	10	10	50	50
21	深安	20	12	60	8	4	67	33
22	神石	40	26	65	14	12	54	46
23	甲奴	36	16	44	7	9	44	56
24	比婆東	61	6	10	5	1	83	17
25	比婆西	23	4	17	3	1	75	25
26	その他	9	1	11	1	0	100	0
		1040	332	32	203	129	58	38



左三つ巴



右三つ巴

## 広島県内の巴紋について [その3]

広島県内には、一二六六社の宗教法人の神社があり、神社庁に登録されている負担金神社（今回の社紋の調査神社）は〇四〇社あります。そこで、巴紋の神社が二三三社あり、全体の二十一%を占めています。

今回は、各支部ごとに、社紋の中に巴紋の割合がどのくらいであるのか、また各支部ごとに左・右巴紋の比率はどうになっていて、どういう特徴があるのかを考えてみたいと思います。

## シリーズ 神社の社紋について④

### 巴紋の比率

支部ごとに見てみると、巴紋の比率の多い支部が、神石支部の六十五%、次いで深安支部の六十%で、備後と備中の国境の支部で巴紋の比率が高いことがわかります。また、反対に巴紋の比率の少ない支部は、佐伯大竹・庄原・比婆東といずれも十%の比率で、これも備後と備中及び安芸と周防の国境の支部です。

また、四十一%から五十%の支部が九支部（広島市・呉・三原・尾道御調・沼隈・安芸・山県東・賀茂・甲奴）あり、山陽道などの主要な街道沿いに多いことがわかります。



各支部別の神紋に対する巴紋の比率図

## 左巴と右巴の比率

広島県内には、左巴紋が二〇〇三社（六十一%）、右巴紋が二二九（三十九%）社あり六・四の割合です。

左巴紋と右巴紋の比率が十・〇～八・二の支部には広島市・安芸・山芦品、四・六～三・七には尾道・甲奴と備後に多いことがわかります。さらに、五・五の支部は賀茂・神石・世羅で、国境の中間地位が該当します。

- 広島県神社庁部区分図 -

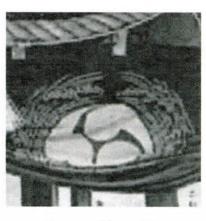
(24支部)



各支部別の巴紋の左右比率図

## 広島県内の特殊な巴紋

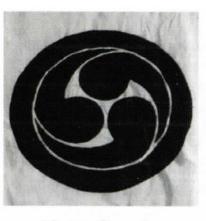
広島県内には、十種類の特殊な巴紋があります。所在支部・神社名・所在地・宮司名を紹介します。



抱き稻に三つ巴(右)  
01016 広島市支部 稲生神社  
【広島市東区中山東】一七一三〇



八咫鏡陰陽勾玉巴(右)  
02005 岡支部 神田神社  
【岡市岡賀中央】一一一三六



丸に三つ巴(右)  
06023 沼隈支部 八幡神社  
【福山市沼隈町草深浜川】一七一三七



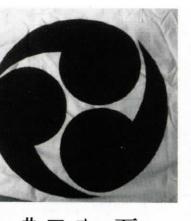
丸に金輪巴(右)  
09031 三次支部 八幡神社  
【三次市三和町大力谷】三六三



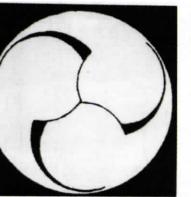
丸に三つ巴(左)  
10030 庄原支部 八幡神社  
【庄原市上原町四】一七一三一



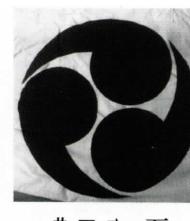
石持ち地落ち三つ巴(左)  
14010 山県東支部 八幡神社  
【山県郡北広島町有田】六〇一



石持ち地抜き三つ巴(左)  
14016 山県東支部 八幡神社  
【山県郡北広島町壬生】八七一



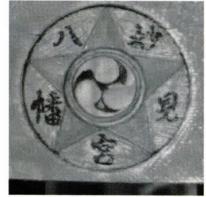
重ね三つ巴(左)  
14016 山県東支部 八幡神社  
【山県郡北広島町井関】一〇一六



丸に北極星と丸に巴(右)  
22020 神石支部 下井関八幡神社  
【神石郡神石高原町井関】一〇一六



丸に三つ巴(右)  
16028 安芸高田支部 石田山神社  
【安芸高田市高宮町房後】五八二



丸に三つ巴(左)  
22020 神石支部 下井関八幡神社  
【神石郡神石高原町井関】一〇一六

「見るのうちに よみがへりゆく 肌の色に  
さよげつる血の たふとこを思ふ

名誉総裁 香淳皇后 日本赤十字社に賜りし御歌(昭和三十五年)

五年前、私はこの御歌どおりのことを目の当たりにしました。

当時、父は闘病中で容態が悪化したため救急車で運ばれ、輸血をすることになりました。血液型はAB型、すぐに血液は届きましたが同じAB型なのに不規則抗体が適合しないため輸血ができず、適合する血液が届けられるまで焦れるような気持ちで待ち続けました。待つこと三時間、ようやく届けられた高知県で献血された赤血球二パックが、父の体内に送り込まれました。それまでは顔は青白く、闘病する気力も萎え、ただ無為に時間の経つのを待つばかりで、口をついて出るのは「もういいよ」という後ろ向きな言葉ばかり。それが輸血を受けると、みると顔色が良くなり気力食欲まで戻ったのか、その夜には「蕎麦が食べたいから買ってこい」というほどに回復。まさに御歌のとおりの効果に家族は驚くばかりでした。

当時、私自身は血液センターに勤務しておりましたので、献血を呼び掛ける立場として血液の重要性はよく知っている「つもり」でしたが、この時改めてその効果の強さ、大きさが身に沁みました。そんな大切な血液ですが、これだけ科学医学が発達した現代でも、なお人工の血液は人間の血液の代替になることはできていません。献血でしか確保できないのです。

現在、献血を必要とする患者さんに血液を届け続けるためには、広島県では毎日約三三〇人の献血協力が必要です。そして血液には有効期限があり、日々安定的に確保しなければならないという事情もあります。

輸血用の血液は赤血球であれば採血後二十八日しか保存できません。このため献血ルームをはじめ県内各所で年中献血をお願いしています。

## 献血のこと

広島市支部 清水谷神社 宮司 渡部厚

この献血に神社がかかわる一例として、大都市圏では「神社de献血」という取り組みがなされました。これは令和二年に国際災害対策支援機構が浅草神社宮司の発案により日赤と連携して始めた事業で、新型コロナウイルスの影響で献血が大幅に減少した時、献血を支援しようとして始まったものです。これまで延べ二五六回開催され、累計で八千人以上の献血協力、そして千人近い「新規」の献血協力を得ることができます。「神社」を舞台にして、これだけの方が献血に協力されたということは、とても意義深いものがあります。

ここ広島では、地形的な制約もありますので同じことはできませんが、神社から献血をはじめ様々な社会貢献活動を発信することで、地域の方々と共に社会を動かせる。世を作り固め成すことを進めて行けるのではないかと存じます。

**神社de献血**

会場では【検温・手洗消毒・マスク着用】をお願いしています。ご来場をお待ちしております。

**神田明神**

4月2日(日)  
11:00～15:30

Web予約は  
こちらから！  
ご予約特典あります

お電話でもご予約可能です！  
0120-30-6002  
(日・祝を除く)

千代田区外神田2-16-2  
JR・地下鉄御茶ノ水駅 徒歩5分

オリジナル記念スタンプ  
神社de献血オリジナルスタンプ

16歳から最長69歳まで  
60歳以上の献血について、60～64歳の間に献血経験がある方にあります。

- 高血圧・コレステロール
- アレルギー(花粉症など)
- 尿酸値
- 漢方
- サブリ
- ぜんそく(予防)
- 低用量ピル

服薬しても  
ほとんどの方が  
献血OK

主催：一般財団法人国際災害对策支援機構 協賛：宗教法人神田明神

### 令和五年度予算・諸議案承認される

去る五月二十四日(水)東京の明治記念館で令和四年度神社本庁表彰式が行われました。式典は午後二時開始、昨年同様池田厚子総裁ご欠席により総裁式辞を鷹司統理が代読後、田中恵清総長から表彰審査の報告。次いで受章者全員の氏名を読み上げ、各条項毎の代表者に鷹司統理並びに田中総長から表彰状と記念品が授与されました。

次に来賓の久邇朝尊神宮大宮司、三村明夫全国総代会会長(代理)の祝辞と続き、受章者を代表して荒山神社宮司阿部憲(柄木晃)が謝辞を述べられました。最後に岩下忠佳長老の発声により、聖寿万歳が声高らかに奉唱されて式典は滞りなく終了しました。

尚、広島県から左記六名の方々が受章され、当日神職三名の出席となりました。表彰の栄に浴された方々にお祝い申し上げます。

### 【神職】

#### 三一三(三名)

厳島神社	禰宜	河野 豊
寶藏神社	宮司	尼子 卓
熊野神社	宮司	小原義識

### 【神職外】

#### 三一三(三名)

府中八幡神社	役員	宮口英昭
八幡神社	役員	岩山泰憲
丹生神社	役員	岡田武士

(敬称略)



### 事務局だより

【訂正】前号の序報(一五〇号)のP9に誤記がありました。

階位授与 権正階

(誤) 小原祥朗 三次市三若町二二五二五一

小畠直樹 三次市畠敷町一一一一〇四

(正) 小原祥朗 三次市畠敷町一一一一〇四

小畠直樹 三次市三若町二二五二五一

茲に謹んでお詫び申し上げますと共に訂正致します。

### 広島県神社庁ホームページを活用下さい

広島の神社検索や、祭祀・参拝作法・人生儀礼・建築儀礼等の説明、「広島のまつり」の紹介などを掲載しています。

スマートフォンでも閲覧できますので、QRコードを読み込んでアクセスして下さい。



## 支部だより

### 三次支部

#### 「支部ホームページの開設」

三次支部では、昨年の夏よりホームページを開設しております。若手の神職より支部のホームページがあつても良いのではないかとの声に支部内の神職も賛同してくださり、ホームページを作れる神職がいたことから開設することとなりました。支部内の神社で個別にホームページを開設するのはなかなか難しいこともあり、支部でホームページを開設し支部内の神社の紹介やお知らせなどを掲載しております。希望された神社についての詳細も掲載しており、各神社の情報発信の場としております。

まだまだ改善の余地はありますながらも、少しずつ教化、情報発信の場として活用していくけれどと考えております。どうぞ一度ご覧いただき、ご意見やご感想をいただければ幸いです。



(小畠直樹 通信員)



讃岐一宮の田村神社(池田博文宮司)に正式参拝をし、宮司様のお話を聞きました。「神社本庁で問題が起きているが、神職不足・過疎化高齢化・信仰心の弱まりの今こそ、和を深め、心を一つにして神明奉仕に努め、神祭りを守つて行かなければならぬ。信仰心を高め、神社にお参り頂くために田村神社では、参られる方に喜んでもらえるよう、神龍や鐘楼門などを造り、参拝者が増えたが、氏子の中では多くの反対意見が出た。自分を強く持つて、事に当らなくてはならない。」と話されました。午後は四国水族館を観光し、イルカのショーなどを見て帰りました。

今後コロナ禍により縮小された祭りの完全復活を目指していきます。

### 甲奴支部

#### 「四年ぶりの支部研修会を開催」

コロナ禍により、支部研修が三年間中止となっていました。五類に移行し、研修旅行を実施することとなり、香川県への研修旅行、此の度は六名の参加でした。

讃岐一宮の田村神社(池田博文宮司)に正式参拝をし、宮司様のお話を聞きました。「神社本

令和五年六月四日(日)午前十時より、吾妻山山開き(安全祈願祭)が吾妻山のふもと庄原市比和町鎮座の籠守神社の荒木睦美宮司により斎行されました。来賓として庄原市の木山市長を始め地元振興会有志の方々が多数出席されました。

引き続いて、広島県指定無形民俗文化財「比婆斎庭神楽」より『荒神』の舞を奉納し、登山客や地元の皆様にも鑑賞して頂きました。

吾妻山山頂近く、国民宿舎が閉鎖されて雨天中止となる祭典・神楽のご奉仕でしたが、神様のご加護により良天候にて実施できました。

(児玉朝光 通信員)



### 比婆西支部

#### 「山開きの安全祈願祭を斎行」

令和五年六月四日(日)午前十時より、吾妻山山開き(安全祈願祭)が吾妻山のふもと庄原市比和町鎮座の籠守神社の荒木睦美宮司により斎行されました。来賓として庄原市の木山市長を始め地元振興会有志の方々が多数出席さ

## 山県東支部

### 「枝宮八幡神社にて勉強会を開催」

去る六月十六日（金）に森脇智子先生を講師に招いて勉強会が行われ、多くの参加者が集まつた。枝宮八幡神社（森脇健児宮司）は古くから「三輪莊大麻三莊鎮守枝宮」と崇められた古社である。この本殿は典型的な芸備造の三間社であり、身舎柱は粽のある丸柱で頭貫を用いず飛貫を代わりに入れる。身舎の組は皿斗付の大斗舟肘木であり、中備はない。妻飾は虹梁大瓶束であつて挾首棹を入れる。

庇は切面の角柱とし絵様実肘木入りの梓肘木組を乗せる。両端は象の丸彫の木鼻を付け、連二斗とし中備は形の良い本蔓股を用いる。

四十三年大朝上正里の耕地整理の時、白砂氏の水田より発掘したもので、この地点より上流に「麻の前」と呼ぶ場所があり、大麻朝杉と言ふ巨木があり、その根が発掘地点まで流出し埋没した物である。一度散策してもらえばと思う。



（石橋正敏 通信員）



（梶原武彦 通信員）



## 山県西支部

### 「支部神社総代連合会で参宮旅行」

山県西神社総代連合会（西川征吾会長）では、六月四日から五日の一泊二日の参宮旅行を行いました。前日には長尾神社（佐々木盛良宮司）で旅行安全祈願祭が斎行され、当日は北広島町八幡を午前五時半頃出発して、伊勢神宮外宮に午後二時半頃に到着。参拝の後、一見ヶ浦に移動して、夫婦岩・興玉神社に参拝後、鳥羽温泉のホテルに到着。夕食では全員で和やかに懇親会が行されました。

翌日早朝、太平洋から昇る素晴らしい日の出を見ることが出来ました。内宮に到着後、記念写真を撮り、宇治橋を渡り巨木の間から立ち上る空気を感じながら参道を進み、神楽殿では二十七名全員で御神樂を奉納しその後、緑の木々が囲む参道を進み、御正宮で御垣内参拝を致しました。

平日でも参拝者が多く、特に外国人のグループが多かつたです。その後、おかげ横丁を散策後、昼食を済ませて予定時間通りの午後九時頃に到着し、二十七名全員無事に参宮旅行を終ることが出来ました。

## 安芸高田支部

### 「市入り例大祭神輿の御幸復活」

安芸高田市吉田町鎮座の清神社（波多野公一宮司代務者）は例大祭神輿の御幸を令和二年に中止して以来三年振りに復活させた。

毎年五月五日に行う由緒ある御幸の神事は、古式の装束を纏つた中学生と氏子総代ら総勢六十名が一日かけて市中十か所のお旅所を巡るもので、御幸には子ども歌舞伎を演じる壇尻屋台がお供をする。子ども歌舞伎は三百四十九年前の延宝二年（一六七四）から御幸のお供として始ましたが、御幸の神事はそれよりさらに以前からと記録されている。

長い間、時間をかけて培われ、先人から受け継ぎできたこの伝統ある歴史的文化的事業は、清神社のみならず地域の大きな財産ともいえ、子ども歌舞伎とともに将来に亘って守り伝え、後世に残すべく可能な限り努力しなければならないと考えている。

今年は毛利元就公郡

山城入城五百年の年であり、毛利氏縁の清神社神輿の御幸神事が復活できること、また将来

に繋げることができたことは極めて意義深く、地域や総代、吉田中学校など多くの熱意と協力の賜物と感謝している。

（波多野公一 通信員）

## 府中芦品支部

### 「支部総代連合会総会で実践講演を拝聴」

府中芦品支部(追林貴之支部長)では六月二十二日、府中市文化センターにおいて第三十六回支部総代連合会総会(宮口英昭連合会長)を開催した。総会は、府中芦品支部内の負担金神社のすべての総代と神職が、年に一度、地域の神社の発展を協議する大切な会議である。まず総会は、広島県神社庁長である福山八幡宮の吉川通泰宮司を来賓に迎え、三年ぶりに参加制限を行わず、盛大に開催された。

会議の後に三次支部の太歳神社禰宜の小原祥朗先生による『過疎地で拝む』とある、兼業神職の取り組み」と題した講演会をおこなった。小原先生の本務神社である太歳神社は、神社本庁の第二期「過疎地域神社活性化推進施策」を三次支部が、令和三年度から三年計画で事業を受け、最終年度にあたる本年度を『神社と地域の連携』を取り組んでおられる。講演は小原先生の兼業神職としての生活と奉務神社と地域の概要と現状から、その後の活性化対策の計画及び現在までの実施報告など、多岐にわたり内容の濃い、実践的な講演をいただいた。当該神職および総代は時間を忘れ聞き入り、自分の関係する神社へとライドバックしながら家路についた。



(波多野公一 通信員)



今年の第一〇五回全国高等学校野球選手権広島大会を前に、吉田高等学校硬式野球部必勝祈願祭が、六月三十日(金)郡山城の麓、毛利元就ゆかりの安芸高田市吉田町鎮座の清神社(波多野公一宮司代務者)で執り行われた。

木村剛毅校長、増田浩汰監督、梶間凜主将らが参列した。波多野宮司代務者の必勝祈願の祝詞に続き、監督、選手や学校関係者、後援会、同窓会役員らが玉串を奉奠し必勝を祈願した。神事後、清神社から必勝箸が、後援会から元就の「三矢の訓え」にちなんだ三本の矢と硬式ボールが勝利を祈念し選手に手渡された。

一昨年夏以降、部員が減少、昨年の選手権大会は一、二年生で戦った。この春新入生六名が入部し、選手十六名、マネージャー三名で選手権大会に臨む。四月以降の練習試合では五連勝し、昨年の同時期に比べ士気も高く、投打ともに勢いがあり、祈願祭でさらに霸氣を高めた。「百万一心、一球入魂」で試合に臨めば必ず結果が出ると後援会も期待している。初戦は七月十五日市立福山高校と対戦する。

## 安芸高田支部

### 「吉田高校硬式野球部必勝祈願」

今年の第一〇五回全国高等学校野球選手権広島大会を前に、吉田高等学校硬式野球部必勝祈願祭が、六月三十日(金)郡山城の麓、毛利元就ゆかりの安芸高田市吉田町鎮座の清神社(波多野公一宮司代務者)で執り行われた。

桜の季節は多くの参拝者で賑わうが、花見の時期を過ぎても少しでも参拝者が楽しめるようになると、有志の会約十名が町内の家庭に眠っている鯉のぼり二十匹を集め、八幡川をまたぐように張ったロープにつないで泳がせました。新緑の中、風が吹き抜けると気持ち良さそうに身を翻していました。

高齢化が進む地域で活性化のきっかけになればと有志の会が町内に呼びかけ、イノシシに荒らされた周囲の、やはた川自然公園の芝生も進んで整備されました。

連休中に訪れた参拝者からは、「最近は少子化で鯉のぼりを見る機会も少なくなつた。勢いよく泳ぐ鯉のぼりを見て、元気をもらつた。」という声が次々に聞かれ、氏子の人々も初めて飾られた鯉のぼりに歓声をあげ、是非来年もと楽しみにしていました。

有志の会も来年はもっと沢山泳がせたいと意気込んでいました。

(桑原光彦 通信員)



## 三原支部

### 「八幡川に鯉のぼり」

御調八幡宮(桑原國雄宮司)の氏子有志の会が、四月二十二日～五月十三日まで、当八幡宮のそばを流れる八幡川に初めて鯉のぼりを飾りました。

## 世羅支部

# 「総代による神社活動報告及び提案」

六月十八日、世羅郡神社総代会（上田隆二会長）主催による令和五年度世羅郡神社関係者大会並びに総会が、せらにしタウンセンターに於いて約八十名の参加者のもと開催された。

始めに林幸和支部長は「新型感染症の五類移行により神社はかつての賑わいを取り戻しつつある。夏からは子供の提灯行列も復活できるよう準備を進めている。各神社でも以前の賑わいを取り戻せるように何か施策を考えてもらいたい。また、世羅郡での神職資格取得希望者への助成金の活用も是非検討して頂きたい。」と熱い思いを述べられた。

### 総会後の活動報告

では、領家八幡神社（甲

山地区）の久保田伸吉総

代から、古くから伝わる神祇踊りや獅子舞の起源の説明があり、「米作りを中心とした町の伝統的な祭祀を今後も盛大に続けていきたい」と発表された。

次に両化八幡神社（世羅西地区）の小迫高総代より、世羅郡において神社の規模に関わらず氏子が減少傾向にあること



の問題点、新たに若年層や女性

## 支部だより

等も神社に来やすいように綺麗なトイレの整備等に予算を充てたこと等に関する説明があつた。これからの神社再建を周辺地域の協力を仰ぎ、広い視野で模索していく広域連携についても提案があつた。

次に野原八幡神社（世羅地区）の中島秀也総代より、氏子世帯数の減少・高齢化と関連した神社に迫る竹林の維持の問題に関して、『ひろしま森づくり事業』を活用し、竹林の伐採、倒木撤去及び間伐や下草刈を三年計画で行っていること、また里山課題解決推進事業活用による整備の推進等についても報告があつた。「地域で守る神社では、住民の同意を得た上で、利用可能な事業はしっかりと活用していく事が神社の維持には大事なことである」と提案された。

（竹廣浩一 通信員）

## 編集後記

広島県神社庁・府報誌「二葉」第151号をお届けします。今号は、神社関係者大会での発行となります。氏子総代皆様に広く目を通して戴き御社頭での活動に生かしていかれますよう、分かり易い編集を心掛けるように致しました。今回も発行に際し御協力いただきました皆様、厚く御礼申し上げます。

庁報編集委員一同

## 庄原支部

### 「日吉神社 早駆け馬神事 四年ぶり開催」

令和五年四月十六日に「山王さん」と親しまれる庄原市山内町鎮座日吉神社(児玉吉史宮司)の春の例大祭が斎行され、新型コロナウイルス禍で近年中止されていた早駆け馬神事が奉納された。天候が心配されたが、四年ぶりの奉納とあって、心待ちにしていた氏子・崇敬者を始め、多くの参拝者が訪れた。午前十一時と午後二時半の二回、鉢巻き姿の騎手が手綱をさばき三頭の馬が約五十メートルの参道を一気に駆け上がる」と、参拝者から歓声が上ると共に、写真愛好家によるシャツター音に包まれた。

この神事は永禄七年(一五六四)毛利軍についた第十一代甲山城主山内首藤隆通が尼子軍との合戦に勝利し、三騎の騎馬で戦勝報告に参じたことに由来する。

今回、早駆け馬神事を再開する際、馬を調達する経費が嵩み神事の再開が危ぶまれた。この状況を打開し、早駆け馬神事を継承していくため、日吉神社では住民組織代表たちと保存会を結成した。児玉吉史宮司は「氏子だけでは継承に限界がきている。氏子以外にも会に加わつてもらい、神事の担い手に育つてほしい」と話した。



乙女らが玉串を奉奠した。



## 安芸高田支部

### 「はやし田」

五月二十一日に川根のはやし田、二十八日には安芸(原田)のはやし田が行われた。はやし田に先駆け、それぞれ安芸高田市高宮町川根鎮座の龜尾山神社(三上千登勢宮司)、同原田鎮座の八幡神社(穂田公男宮司)により太陽と土、水の神「さんばい」を迎える神事が行われ、その加護によって無事な田植えと

秋の収穫の大なることを願い田主、歌大工、はやし方、早い田植えと保存会を結成した。児玉吉史宮司は「氏子だけでは継承に限界がきている。氏子以外にも会に加わつてもらい、神事の担い手に育つてほしい」と話した。

川根のはやし田では来年春閉校となる川根小全児童九人が太鼓などはやし方の一部を担い、原田のはやし田では三頭の飾り牛が代を搔き、早乙女がはやし方の田植え歌にのせて苗を植えた。安芸高田市には「はやし田・田楽」とよばれる民俗文化財が多く伝承されている。国指定の安芸(原田)のはやし田ほか七か所が県や市の無形民俗文化財に指定され、民俗学的にも価値が高いとされる田植え歌や、飾り牛を使う古来の手法による花田植えとして今に息づいている。今年は深緑の五月から六月初めにかけ、山間に広がる水田五か所で行われた。

(宮永卓宜 通信員)

(波多野公一 通信員)